



6:3 ときに、ダニエルは、他の大臣や太守よりも、きわだってすぐれていた。彼のうちにすぐれた霊が宿っていたからである。そこで王は、彼を任命して全国を治めさせようと思った。

6:4 大臣や太守たちは、国政についてダニエルを訴える口実を見つけようと努めたが、何の口実も欠点も見つけることができなかった。彼は忠実で、彼には何の怠慢も欠点も見つけられなかったからである。

6:5 そこでこの人たちは言った。「私たちは、彼の神の律法について口実を見つけないければ、このダニエルを訴えるどんな口実も見つけれない。」

6:6 それで、この大臣と太守たちは申し合わせて王のもとに来てこう言った。「ダリヨス王。永遠に生きられますように。」

6:7 国中の大臣、長官、太守、顧問、総督はみな、王が一つの法令を制定し、禁令として実施して下さることに同意しました。すなわち今から三十日間、王よ、あなた以外にも、いかなる神にも人にも、祈願をする者はだれでも、獅子の穴に投げ込まれると。

6:8 王よ。今、その禁令を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできないメディアヤとベルシヤの法律のようにしてください。」

6:9 そこで、ダリヨス王はその禁令の文書に署名した。

6:10 ダニエルは、その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。・・彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。・・彼は、いつものように、日に三度、

ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。

6:11 すると、この者たちは申し合わせてやって来て、ダニエルが神に祈願し、哀願しているのを見た。

6:12 そこで、彼らは王の前に進み出て、王の禁令について言った。「王よ。今から三十日間、あなた以外にも、いかなる神にも人にも、祈願をする者はだれでも、獅子の穴に投げ込まれるという禁令にあなたは署名されたではありませんか。」王は答えて言った。「取り消しのできないメディアヤとベルシヤの法律のように、そのことは確かである。」

6:13 そこで、彼らは王に告げて言った。「ユダからの捕虜のひとりダニエルは、王よ、あなたとあなたの署名された禁令とを無視して、日に三度、祈願をささげています。」

6:14 このことを聞いて、王は非常に憂え、ダニエルを救おうと決心し、日暮れまで彼を助けようと努めた。

主を信じ従う者は祝福されます。これはクリスチャン家庭も、またクリスチャン職業人も同様でしょう。しかし世の中には、幸いな者に対して妬んだり押しつけようとする者がいます。神に祝福されている者にも、風当たりが強いときがあるのです。

これは信仰ゆえの迫害というよりは、幸いゆえの妨げではありますが、クリスチャンはそれで相手を憎んだりはしません。むしろ証しのチャンスとすることができる。ダニエルが敵を陥れて保身を図るような人であったなら、王は「ダニエルを救おうと決心」することはなかったでしょう。

主への信仰と、信頼によって天の栄誉を勝ち取

りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

